

大凧 便り

第137号

大凧会館HP <http://oodako.net/>

ブログ発信中 <http://oodakomuseum.shiga-saku.net/>

編集・発行 世界凧博物館東近江大凧会館 平成29年10月24日発行

〒527-0025 滋賀県東近江市八日市東本町3-5

TEL: 0748-23-0081 FAX: 0748-23-1860

IP: 050-5801-1140

開館時間: 9時~17時 休館日: 毎週水曜日、第4火曜日、祝日の翌日

平成18年度から指定管理者制度により(公財)東近江市地域振興事業団が管理しています。

毎週第3日曜日は「家族ふれあいサンデー」 東近江市民の方は、「ふれあいカード」をお持ちの上、家族でお越し下さい

＝「北海道の凧と郷土玩具展」開催＝

開催期間 平成29年10月26日(木)から11月26日(日)まで

開館時間 午前9時~午後5時まで(入館は午後4時30分まで)

休館日 毎週水曜日、祝日の翌日、第4火曜日



凧屋



今年度から地方に分け順番に大凧会館で収蔵している凧を紹介していきます。今回は北海道地方の凧です。北海道の凧は歴史や伝統のある凧がありません。大別すると凧の製作者の出身地のふるさとの凧を製作する場合と北海道独自の郷土凧を定着させようと新しい凧を創案する場合があります。今回展示している凧は、北海道の民謡「ソーラン節」に歌われているカモメと波を表した「ソーラン凧」、函館の史跡「五稜郭」を題材にした五角形の「五稜郭凧」、アイヌ神話を題材にした絵柄が描かれている「蝦夷凧」など30点です。北海道らしさの凧ばかりの展示となっています。また、郷土玩具研究者として著名であった桃井喜三郎先生が永年にわたり収集された郷土玩具(東近江市近江商人博物館所蔵)の中から、八角形の胴に角形の頭が付いた、こけしに似た木製人形の「ニボボ」、北海道の各地で見られる代表的な観光土産品でヒグマの姿を木彫りにした「木彫りの熊」など19点の北海道地方の郷土玩具を展示します。北海道地方に結びついた物や動物などの玩具ばかりです。ぜひ、みなさんお越しください。



昭和45年の「北海道開拓100周年記念」にあわせて創作されました。函館特産のイカの形を題材とした郷土凧、大漁を祝う「祝」の文字の上に函館市の市章をあしらっています。



北海道にはたくさん雪が降ることから舞う雪の結晶を描いた郷土凧、四隅に塗られた茶色い部分は北海道の雄大な大地を表しています。



日本各地で作られた奴凧をアイヌ凧にアレンジしたもの。ヤッコをアイヌの又と読ませ、アイヌタコと読ませています。



ニボボを原始的な形にした人形。北方民族の「オロッコ族」が「幸をもたらす人形」として信仰していたものを、郷土玩具として製作したものです。



＝秋の校外学習＝

秋の大凧会館はバス遠足や校外学習で小学生の皆さんがたくさん来館される季節です。市内はもちろん、東近江周辺の地域、または大阪から来てくれた小学校もあります。1年生や3年生の児童さんの来館が多く、はんじもの説明や東近江大凧の歴史について皆さん熱心に聞いてくれました！学校によっては凧のスケッチをしたり、自分たちの干支のスタンプをしおりに押しだされました。「一番古い凧はどれかな？」というクイズをされる学校もありましたよ。また、凧作り教室では、個性豊かな絵を描いて楽しんで凧を作ってくれました！皆さん、東近江大凧について、たくさん学んで帰ってくださったと思います◎



帰られる際に職員が「また来てね～」と見送りますが、後日ご家族で来てくださる児童さんも何名かいらっしゃって、大変嬉しく思っております！また来たいと思っただけの会館を目指して頑張りたいと思います。

＝東近江大凧会館へお立ち寄りください。＝



11月は、別名「霜月（しもつき）」と呼ばれ、文字通り寒さを感じさせる時期です。

秋の終わり、晩秋の頃であり各地で、紅葉が見ごろになります。月の後半になるにつれて寒さは増し、コートやマフラー姿の人たちを見かけるようになります。暦の上で立冬も向かえ、寒い日が目前であることを感じる月です。3日は「文化の日」ですね。元々は、明治天皇誕生日ですが、昭和21年11月3日に自由と平和を愛し、文化を尊重する日に制定され、国民の祝日となりました。23日も「勤労感謝の日」祝日ですね、祝日を利用してお出かけしてみたいですか？

大凧会館では、10月26日（木）から11月26日（日）まで、「北海道の凧と郷土玩具展」が開催中ですので、ご家族一緒にお立ち寄りください。来館をお待ちしております。



＝スタイルアサヒ＝

朝日新聞の読者の方へ集金時に渡される「スタイルアサヒ11月号」のっぽんの伝統行事を訪ねて「四季彩祭」のコーナーで、太郎坊宮で毎年12月第1日曜日に行われている「お火焚大祭」がメインで取り上げられました。近くの見どころとして大凧会館、そして井上製菓さんが掲載されます。全国で250万部、無料情報誌です。



＝飛び出し坊やコレクション＝

10月8日（日）、9日（月・祝）の2日間、道の駅奥永源寺溪流の里で「開駅2周年記念祭」が開催されましたが、イベントコーナーの中の「飛び出し坊やコレクション」に、いつも大凧会館の玄関でお客様を出迎える「大凧会館オリジナル」飛び出し坊やが出張し、他のオリジナルの飛び出し坊やと一緒に大凧会館をPRしました。



＝わがまち愛レベルアップ講座＝

急に寒くなってきました。皆さん風邪などひかれていますか？

さて、東近江大凧会館は地元の方だけでなく市外県外からも多くのお客様がいらっしゃいます。「この後どこかお勧めの観光地ありますか？」とお尋ねいただくことがあります。東近江市は鈴鹿から琵琶湖まで面積も広く歴史ある地域も多く見て頂きたいところがたくさんあります。館内にパンフレットも準備しており、それらを見ながらご案内するのですが、「百聞は一見に如かず」です。情報として知っているだけでもご案内することはできませんが、実際自分が行って観てくる！はとても大切と思っています。今回良い機会をいただきました。「わがまち愛レベルアップ講座」を受講してきました。

午前中はサンライズ出版代表取締役岩根順子氏による講義で近江商人と三方よしの考えについて学びました。実はこの夏休み子ども達と「近江商人博物館」へ行ったところで、お話の内容もよくわかり良かったです。その後「ぶらざ三方よし」へと移動し、昼食に地元五箇荘の生活改善グループによる「伝承料理」をいただきました。ご存知ですか？おめでたい席の特別なお食事「泥亀汁」（お味噌とお米とゴマをすったお汁に亀の甲羅に見立てたなすびが入ったお汁もの）に「黄金めし」（くちなしの実を入れて炊いたご飯）初めていただきました。豪華な食材が無くてもおもてなしやお祝の心を表現した伝統料理ここにも近江商人の生活ぶりが表れています。

午後は観光ボランティアさんにガイドをしていただきながら五箇荘の街並みを散策しました。パンフレットには載っていないそれぞれのガイドさんの説明を聞くことができより深く理解することができました。

このように五感を使って見聞きしたことは、今後お客様へご案内する時にも自分の言葉で伝えることができますし「東近江に来られたら是非こちらにも寄っていただきたい」という思いが強くなります。大凧会館単館としても努力することはもちろんですが、東近江市内の施設や観光地が連携して東近江市をたっぷり楽しんでいただけるようになるとうい感じました。

＝2017年11月の予定＝

- 「北海道の凧と郷土玩具」展開催中11月26日（日）まで
- 3日（金）東近江秋まつり 「二五八まつり」
- 4日（土）東近江秋まつり 「農業水産まつり」
- 6日（月）船岡中学校凧作り（絵付け）
- 9日（木）～14日（火） 聖徳中学校職場体験
- 10日（金）船岡中学校凧作り（骨組から完成まで）
- 11日（土）2018年祝新成人20畳敷大凧「のりつけ式」
- 13日（月）岩根小学校1年生 見学と凧作り体験
- 16日（木）布引小学校6年生見学
- 19日（日）家族ふれあいサンデー
- 19日（日）全国風揚げ浜松大会
- 11月の休館日

11/1・11/8・11/15・11/22・11/24・11/28・11/29

一月一凧は今号休みます。